The background of the cover is a photograph of a pink balloon tied to a string, hanging from a tree branch. The balloon is partially obscured by dark green leaves in the foreground. The background is a soft, out-of-focus pinkish-red color. The text is overlaid on the left side of the image.

# Pink Ribbon Festival in Tsukuba 2008

報告書

# つくばピンクリボンフェスティバル08

Breast Cancer Awareness 乳がんをかんがえよう

2008年5月11日(日)母の日 つくば国際会議場エポカル

10:00-	受付開始/エントランスホール (-15:00) 乳がん検診/北駐車場(検診車) ウォーク/エポカル、ペディストリアン 乳がん相談コーナー/中会議室201 展示ブース・患者の会/中会議室202 (-16:00) ピンクリボン絵画展/2F通路 (-16:00) バルーン パフォーマンス (-16:00)
10:45-12:30	わたしが口紅をつけた理由/中ホール200 ジェラリン・ルーカス講演DVDとメイクアップ講習会
13:00-13:15	講演 乳がんをかんがえよう /大ホール 開会の挨拶
13:15-13:45	第1部 基調講演 乳がんを体験して患者、記者の視点から 本田麻由美 読売新聞
13:45-14:30	茨城県の乳がんの動態 茨城県保健福祉部保健予防課 山浦俊一 つくば市の検診の取り組み つくば市健康増進課 藤永珠美 パネルディスカッション
14:30-14:50	エイボンピンクリボンコネクションツアー2008
14:50-15:05	ピンクリボン賞団体表彰 ピンクリボン絵画展入賞者発表
15:05-15:15	クイズ答え合わせ・抽選会
15:15-15:30	休憩
15:30-16:00	第2部 患者のための講演会 乳がん治療を受けるご本人とご家族の コミュニケーション 高橋都 東京大学大学院医学系研究科
16:00	閉会の挨拶

主催：NPO法人つくばピンクリボンの会

理事長：植野映/筑波大学附属病院臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科

名誉大会長：市原健一/つくば市長

名誉大会実行委員長：山田信博/筑波大学附属病院長

大会実行委員長：森島勇/筑波メディカルセンター病院乳腺科

共催

筑波大学附属病院、茨城乳腺疾患研究会、茨城県、つくば市、NPO法人乳房健康研究会、財団法人筑波メディカルセンター、社団法人茨城県放射線技師会、財団法人茨城県メディカルセンター、東京医科大学霞ヶ浦病院、財団法人茨城県総合健診協会、取手市医師会取手北相馬保健医療センター医師会病院、日立メディカルセンター、土浦協同病院、つくば市医師会、茨城県医師会

後援

茨城県ウオーキング協会、NHK水戸放送局、茨城県看護協会、首都圏新都市鉄道株式会社(TX)、J:COM茨城

協賛

アストラゼネカ株式会社、アロカ株式会社、株式会社ウロメディカルジャパン、エイボン・プロダクツ株式会社、QOL総合研究所(Q研)、協和発酵工業株式会社、コニカミノルタヘルスケア株式会社、サノフィ・アベンティス株式会社、GE横河メディカルシステムズ株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、ジェクス株式会社、塩野義製薬株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、大鵬薬品工業株式会社、武田製薬工業株式会社、中外製薬株式会社、株式会社つくばユーワールド、東芝メディカルシステムズ株式会社、日本化薬株式会社、ノバルティスファーマ株式会社、株式会社日立メディコ、ファイザー株式会社、 Bristol・マイヤーズ株式会社、株式会社ヤクルト、ユコー株式会社、株式会社ワコール、あおやぎ医院、岩佐医院、医療法人おおたしろクリニック、貝塚みずき野クリニック、烏山診療所、KG竹園クリニック、特別養護老人ホーム「木の花さくや」、医療法人ここの実会嶋崎病院、医療法人弘仁会志村病院、筑波記念病院トータルヘルスプラザ、二の宮越智クリニック、株式会社イセブ、株式会社カスミ、常陽銀行研究学園都市支店、関彰商事株式会社、ダイワハウス株式会社、広沢グループ、有限会社宮島達男事務所、日本生命保険相互会社、株式会社横山印刷、つくば学園ロータリークラブ、ピンクリボンクラブひたち、くるみの会、森の会、たんぼぼ会、NPO法人J-POSH、NPO法人知の市庭&すぎなみ大人塾&図書サービスフロンティア、YW-CAフィットネスワオ、茨城よるこびの会

銀輪隊ツーリング プレイベント 5月10日(土)

発行：NPO法人つくばピンクリボンの会

写真：齊藤さだむ

デザイン：田中佐代子

写真・画像・記事等の無断転載、無断使用をお断りします。

## ♡ご挨拶

植野 映

NPO法人つくばピンクリボンの会理事長  
筑波大学附属病院臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科

乳がんの検診の普及のためにNPO法人“つくばピンクリボンの会 Tsukuba Pink Ribbon Coalition”を設立し、2年が経過しました。その前段階の第1回つくばピンクリボンフェスティバル実行委員会の設立も含めると4年の歳月が流れたこととなります。

その間に、テーマは、“乳がんを知ろう”から“乳がんをかんがえよう”と変遷。そして各地でもピンクリボン運動が活発化し、乳がんそのものを知らない市民はいないといわれるようになりました。このことから私たちは次のステップとして“乳がんをかんがえよう”に進んだ次第です。

乳がんは増えている、乳がんによる死亡も増えているという事は多くの方は今では理解されています。しかしながら、交通事故で亡くなるより乳がんで亡くなる確率が3倍も高い、将来は9倍にもなるなどということはほとんどの方はまだ知りません。一般にはその危機意識はまだ乏しいでしょうが、乳がん専門医からみますと、早期に乳がんを発見するという事は今や輻射の急なのです。

つくば市の乳がん検診受診率は3.1%です。全国平均は11%ですのでその三分の一以下となっています。県内では低い方から3番目。これだけの頭脳集団が集まった学術都市、また、医療機関が整った先進的な都市でありながら、この受診率は何を意味しているのでしょうか。

検診事業は国の仕事でも県の仕事でもありません。市町村単位の行政でその方針が決められます。市町村の税金を利用して検診は行われるのです。それだけにその住民の意識によりその受診率は変化いたします。乳がん検診を理解し、その必要性を認識することが一般市民、議員、役人に求められているのです。

私たち自身が納めた税金をどのように有効に活用するのは必定。そのためには一般市民が乳がん検診の重要性をよく認識し、行動する。一般市民の声は議員を動かす、議員の声は行政を動かします。一般市民、医療従事者、政治家そして行政を司る

役人が一体化して初めて検診を成功に導くことができます。つくばピンクリボンの会の英訳をご覧ください。ここにはCoalitionという言葉をあてました。このCoalition(連帯)が成功の鍵です。連帯しながらお互いに意識を高め、完璧に乳がんを撲滅しましょう。



## ♡総論

森島 勇

つくばピンクリボンフェスティバル08実行委員長  
筑波メディカルセンター病院乳腺科

今年で4回目となるつくばピンクリボンフェスティバル08は、

小雨の降る寒い中ではありましたが、昨年を上回る851名の参加を得て、無事に終了する事ができました。これもひとえに、活動に賛同して下さる関係者皆様からの多大なるご支援のおかげと、心より感謝いたしております。

企画そのものは前回と同様でしたが、雨の中のウォーキング、定員を大きく上回った乳がん検診、多数の絵画作品応募など、いずれも前回よりパワーアップした感があり、この活動が年々着実に浸透してきているものと実感いたしております。また、今回は、講演会に議員の方々に多数ご参加いただき、予算の確保・検診受付期間の拡大・施設検診の拡充など検診受診機



会の拡大の問題点を提起、議論できたことは、収穫であったと思います。

乳癌死亡を減少に転じさせるために必須である高い検診受診率を早く達成できるよう、引き続き啓発活動を展開していきたいと考えております。今後とも、ご指導・ご支援の程、よろしくお願いいたします。

## ♡銀輪隊

上野 修 実行委員

フェスティバル前日に自転車に乗ってアピールする銀輪隊。今年で2回目となりました。

今回は雨で寒い一日でしたが、自転車愛好家25名が集まり、おそろいのピンクリボンTシャツで街を快適に走り、次の日のピンクリボンフェスティバルを大いにアピールいたしました。自転車を通し、年齢も性別も越えたピンクリボンへの参加の層の厚さを共に感じた一日でした。



## ♡乳がん検診

鯨岡 結賀 筑波記念病院放射線科・実行委員

今年度も昨年に引き続き午前中に乳がん検診が行われました。昨年度よりも多くの方からお申し込みをいただき、悪天候にもかかわらず総勢110名の方が受診されました。特に30代、40代の方のご応募が多く、茨城県総合健診協会、取手医師会病院、日立メディカルセンターの方々のご協力の他、東芝、日立の両企業と、茨城県メディカルセンター、筑波記念病院の技師さんにご協力いただき、超音波を別室に行うことでスムーズ



に行うことができました。超音波、マンモグラフィの総合判定ではカテゴリー1が64名、カテゴリー2が40名、カテゴリー3が4名、カテゴリー4、5が各1名という結果でした。

のためのパーティション設置を行ったが、会議室の中央にテーブルと椅子を置き、実行委員の乳がん体験者と話しができるようにしたところ、大変好評だった。病院以外の場所で専門医にゆっくりと相談でき、また患者同士で話しができる場としてこのピンクリボンの活動の特徴として今後も続けていければ、と願う。最後にご協力いただいた乳がん治療専門の諸先生方に心よりお礼申し上げます。

## ♡ ウォーク

春日晴夫 実行委員

9時30分、新緑の筑波路をめぐる10キロ、30余人、小雨の中のスタート。  
10時00分、5キロ、200余人、つくばの目抜き通りでPR、カブスカウトの面々も元気にスタート。  
実行委員会でウォーク担当となり、他力本願とばかりに早速、茨城県ウオーキング協会副会長の川上さんに相談したところ、快くコース設定を引き受けてくださるとともに、集団ウォークの注意事項までご伝授頂き恐縮頻り。  
コース図の作成、試歩、茨城ウォーク協会のボランティアの方々による事前コース調査と進み、今、眼前に翻るピンクの風船の長蛇の列、乳がん撲滅の思いを胸に。  
ご参加頂いた皆様、ご協力頂いた皆様、有難う御座いました。



## ♡ 乳がん相談コーナー

河野 いづみ 実行委員



乳がん相談コーナーは毎年恒例のコーナーになり、今年は事前の相談申し込みが8名あった。その方たちの相談内容を整理し、ボランティアの先生6名の診療得意分野を考慮して、相談者を割り振った。当日の飛び入りの申し込みも2名あり、また予約時間に遅れたり、相談が長くなる方もいたが、先生方には丁寧に対応していただいた。  
今年も相談者のプライバシー確保

## ♡ 展示ブース

小仁所 圭子 実行委員

今年は展示ブースの管理を担当しました。当日の朝にすべて準備をしなければならなかったためとても慌ただしく、他の担当者についていくのに精一杯でした。一人でも多くの方に乳がん検診を受けて頂き、悲しい思いをする人を減らしていけるよう茨城県放射線技師会としても技師会ブースにどうしたら多くの方々にお立ち寄り頂けるかを考え、マンモグラフィや超音波、MRIの写真などに説明者をおき、説明を聞けば全問正解となるようなクイズと景品を用意致しました。お陰さまで一般の方々だけで200名前後、お立ち寄りくださいました。乳がん検診の受診者が、増えるよう心より願っております。



## ♡ 展示ブース参加団体より

田村 匡子 株式会社ワコール リマンマ事業課

会場のエポカルに通うのも、今年で4回目となりました。準備から当日の運営に至るまでの実行委員の皆様のご尽力に対しまして、御礼申し上げます。  
当日は、あいにくの天候にも関わらず昨年を上回る方が参加



され、特に「乳がん検診」への意識の高さには大変驚いております。

毎年「ワコールのリマンマ」は「患者の会」の皆様と一緒に2階の“展示ブース”の中でご紹介をさせていただいておりますが、手に取ってご覧いただいたり、一部の製品はご試着いただけるよう毎年新製品を始め、全商品をご紹介をさせていただいております。

これからの医療の発展を願うと共に、今後ご手術をされた方は勿論、医療従事者の方々にももっと展示ブースに足を運んでいただけるよう、今後益々この活動が発展されますことを祈念しております。

## ♥ 患者の会コーナー

伊東 孝子 実行委員

今年、乳がんを経験した方々が、患者会にこだわらず気軽に参加していただけるようにと、考えました。展示ブースの室内で、周りの方々の目を気にせずに、ゆっくりと話しができるように、コーナーを設定しました。また、相談コーナーの帰りに、参加して下さった方々もおり、代わるがわる50名ぐらいの皆様とお茶を飲みながらゆっくりと、話しをすることができました。途中、乳腺専門の先生も参加して下さり、皆の話しを聞いてくださいました。感謝申し上げます。乳がんを経験した方々が、いつでも話しができたり、聞けたりできる相手(友達・先生・患者会のガン友)を見つけられること



の大切さを、通感しました。ボランティアとして協力していただいた患者会(くるみの会・森の会・たんぼぼ会)の皆様、ありがとうございました。また、来年もお会いしましょう。

## ♥ ピンクリボン絵画展

小田 陽子 実行委員

去年に続き2回目の絵画展を当日大ホール前で開催しました。つくば市立竹園西小学校、土浦市立宍塚小学校、つくば秀英高等学校の3校に協力をお願いしたところ、各校とも先生方に多大なご理解、ご尽力をいただき、予想を超える430人もの生徒さんがピンクリボンの啓発のためポスターを描いてくださいました。カラフルで個性あふれる作品に番号名札を付け、一枚一枚掲示しましたが、それは楽しい作業でした。人気投票の結果トップから5名と、実行委員・ゲストに選んでいた作品7名にはピンクリボン絵画賞を設け、後日、賞状をお届けしました。全員に会から手帳、タオル、ペン、バンドナを

お渡ししました。今回も先生方とのお話を通して、また寄せて下さった作品を見て、この運動が広がっていく手応えを感じました。

関係した皆さんにはこの体験を少しでも覚えておいてほしいと願っております。時が経って、「あの時、ピンクリボンでポスターを描かされたなあ」でも良いのです。そんなことでも将来ひょっとしたら、一人の命を救うきっかけになるかも知れないと思うのです。

思考錯誤を繰り返しながら絵画展を企画いたしました、トライする場を与えてくださった皆様の懐の深さに敬服いたしております。



## ♥ バルーンパフォーマンス

林 剛人丸 筑波大学芸術学群

本年もつくばピンクリボンフェスティバルが盛況であったことに、心からお祝いいたします。



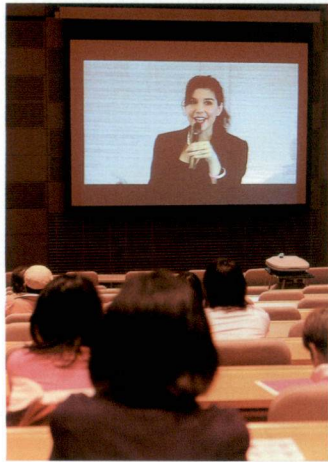
今回、私は飛行機のワークショップで参加させていただきましたが、来訪する方々とふれあいながら、スタッフの皆さんの心意気が伝わっているように感じました。これからも実りある活動であることを確信しています。私も参加できて光栄でした。ありがとうございます。

## ♥ わたしが口紅をつけた理由

中野 潤子 実行委員

中ホールでは、知の市庭&すぎなみ大人塾&図書サービスボランティア主催で、G・ルーカス講演会DVD放映と、エイボンプロダクツ主催の「メイクアップ講習会」が行われました。「わたしが口紅をつけた理由」というのはルーカスさんの著書のタイトルで、“口紅”は乳がん患者である彼女の心の葛藤と生きることへの希望を見出すキーワードです。

まず、知の市庭&すぎなみ大人塾&図書サービスフロンティアの紹介、次に昨年10月28日つくばピンクリボンフォーラムで行なわれたルーカスさんの講演会DVDが放映されました。その時同時通訳をされた豊田典子さんから、ルーカスさんとの出会いや、その人柄、またアメリカにおけるピンクリボン活動の紹介がありました。次に私よりフォーラム当日の感想とアンケート結果の報告をしました。会場では、ピンクリボンバッグ(アメリカで乳がん告知をされた時、医師から患者に配られるグッズの数々)の紹介などもあり、参加者から



大きな関心が寄せられました。次いで、エイボンビューティーセンターの光江氏(ソシエ・エスティシャン)によるお化粧品講習会「リハビリメイクの実演」を行いました。美顔マッサージの方法や、美しく見えるお化粧品法など、参加者は熱心にマッサージをしたり、メモを取ったりしていました。とても華やかで女性のための講習会になったと思います。

の周知、受ける側の意識の問題点、受け皿のキャパシティの問題、働く女性の職域検診での問題点、専業主婦の場合の問題点、国から対策の必要性などが議論された。休憩を挟んで高橋都氏(東京大学)による患者のための講演会「乳がん治療を受けるご本人とご家族のコミュニケーション」が行なわれた。患者を取り巻く人間関係の中で、特にパートナー、子供たちとどう向き合っていくのか、病気になってからの関係の変化等の調査結果に基づき、またご自身の体験も踏まえながら、(病気になっても)「人生のど真ん中を歩いていくように」と優しく諭されるように話された。パートナーの心にも焦点が当てられ、この話で随分安堵し、励まされた家族も多かったのではと思う。このような患者を取り巻く心の問題は、今後ますます期待される分野であり、たとえばがんになっても心安らかに社会生活を営める成熟した社会になることを望みたい。



## ♥ 講演 乳がんをかんがえよう

八木淳子 実行委員

昨年に引き続き「乳がんをかんがえよう」をテーマに基調講演、パネルディスカッション、患者のための講演会をエポカル大ホールにて行なった。司会は植野映理事長と「今日の健康」(NHK教育)ですっきり健康専門のアナウンサーとしての地位を確立した感のある松岡正美さんに今年もお願いした。

名誉大会長であるつくば市長市原健一氏の開会の辞、茨城県副知事川俣勝慶氏、衆議院議員総務会長丹羽雄哉氏のご挨拶の後、本田麻由美氏(読売新聞)による「乳がんを体験して一患者・記者の視点から」の基調講演が行われた。ご自身が患者になって直面した様々な疑問を客観的な記者の視点で捉え、医療が抱える課題へ問題提起するようになるまでの過程には、患者になったからこそ成し得た圧倒的な力を感じた。がん対策基本法が施行されるまでの経過、がん難民、保険制度、承認薬の問題、患者の声が政治を動かした話など、短い時間ながら大変密度の濃い話だった。患者には“勇気”を、一般の人には“警鐘”を、医療関係者には“道標”を与えた講演ではなかったらどうか。

続いては茨城県保健福祉部保健予防課の山浦俊一氏による「茨城県の乳がんの動態」、つくば市健康増進課の藤永珠美氏による「つくば市の検診の取り組み」が話された。行政のサポート体制や予算、取り組みがわかりやすく説明され、つくば市の工夫された“レディース検診”の話など、今回は検診に受けようと思った人もたくさんいるのではないかなと思う。次に「検診受診率をアップするために」をテーマとしてのパネルディスカッション。医療者、患者、一般市民、行政者、政治家の代表がそれぞれの立場で意見を出し合い、受診必要性

## ♥ ピンクリボン賞

「ピンクリボン賞」は乳がん検診に貢献している団体に贈られる賞で、第2回目となる今年は下記2団体が受賞した。

### 財団法人茨城県総合健診協会

受賞理由:茨城県において対策型の乳がん検診を幅広く行い、早期の乳がんをもっとも多く発見した施設であり、超音波併用乳がん検診のランダム化比較試験に積極的に参加した姿勢に敬意を表して。

### 財団法人茨城県メディカルセンター

受賞理由:全国に先駆けてマンモグラフィ検診、乳房超音波検診を行い、茨城県における検診の基礎を築き、全国の検診を推進する関係者にとってはその実力を向上させる施設であること。



植野理事長より、茨城県

総合健診協会を代表して富沢巧治氏に、また茨城県メディカルセンターを代表して石光敏行氏に表彰状が授与された。

## ♥ 当日ボランティア

坂井 朋夫 実行委員

今年につくばピンクリボンフェスティバルではボランティアの申し込み受付・連絡を担当いたしました。全体で172名の方がボランティアとして参加して下さいました。

当日は朝から雨の降るあいにくの天気でしたが早朝7時には続々とバルーン担当のボランティアの方々が集まり、次々と風船のアーチが出来上がっていきました。各部署で準備が始まると、あちらこちらでいきいきとした表情で和気あいあいと準備をする人たちの姿が目に入ってきました。毎年参加して下さいるボランティアも多く、同じ目的で集まったボランティア同士はすぐに打ち解けて目的の達成に向けてテキパキと準備が進んでいきます。この時点ですでに今年のフェスティバルの成功を確信しました。



ボランティアとして参加して下さった方々、本当にありがとうございました。そして来年もお願いいたします。

## ♥ 参加データ

参加者総数：851名 [内 高校生以下52名]

乳がん検診：110名

ウォーク：230名

私が口紅をつけた理由：100名

講演(大ホール)：280名 乳がん相談：10名

ボランティア数：172名

展示ブース団体：21団体 (患者会も含む)

## ♥ 取材協力

NHK水戸放送局・J:COM茨城



## ♥ 実行委員

阿部聡子(鉄蕉会亀田総合病院)  
池田成昭([財]茨城県メディカルセンター)  
伊東孝子(土浦協同病院 たんぽぽ会)  
植木正俊([財]日立メディカルセンター)  
植野映(筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科)  
上野修(上野歯科医院)  
太田代紀子(おたしろクリニック)  
大塚正裕  
岡田周子  
岡田益吉([財]国際高等研究所)  
小田陽子(筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科)  
小野幸雄([財]茨城県メディカルセンター、つくば総合健診センター)  
貝塚広史(貝塚みずき野クリニック)  
春日晴夫([財]茨城県メディカルセンター)  
加藤勝義([財]茨城県総合健診協会)  
川上清(茨城県ウオーキング協会)  
川口広子(筑波大学附属病院)  
神田裕子  
鯨岡結賀(筑波記念病院放射線科)  
楠木成子(筑波大学附属病院)  
河野いづみ  
小関暎子(筑波記念病院トータルヘルスプラザ)  
小仁所圭子(石岡市医師会病院)  
齋藤修  
さかいひろこ(MOMO)  
坂井朋夫(東京医大霞ヶ浦病院 放射線部)  
菅谷嘉恵子(筑波大学附属病院)  
助川みや子(筑波大学附属病院)  
鈴木武樹(取手北相馬保健医療センター医師会病院)  
田中佐代子(筑波大学芸術学系)  
東野英利子(筑波大学臨床医学系放射線科)  
飛田沙智恵  
中野潤子(筑波大学附属病院 くるみの会)  
林剛人丸(筑波大学芸術学系)  
坂東裕子(筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科)  
東島信明(知の市庭)  
藤原登子  
光畑桂子([財]筑波メディカルセンター、つくば総合健診センター)  
皆葉真治([株]皆葉自動車)  
文由美(つくばセントラル病院外科)  
茂木瑞子(あけぼの会)  
森島勇(筑波メディカルセンター病院乳腺科)  
八木淳子  
楊箆幸恵(茨城県保健福祉部保健予防課)  
山浦俊一(茨城県保健福祉部保健予防課)  
山田信博(筑波大学附属病院院長)  
山田光子(アルスホール ミュージアムショップ)  
山田陽子(森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会)  
吉田りえ(丹羽雄哉事務所)

## ♥ 編集後記

今年もフェスティバル08無事終わりました。もう外は夏の光が一杯で、五月雨にたたられた母の日は遠い過去のような感じがしますが、なんとか報告書まとめました。フェスティバルも4回を重ねますが、決して慣れると言うことはなく、毎回ハラハラ、どきどきの連続。終わっても達成感というよりは反省ばかり、、、しかし皆様からの原稿を読み返していくうちに今年も実り多いフェスティバルであったということを再認識しました。また今年は292通ものアンケートが集まり、参加者の率直な意見の中で、私たちに求められていること、今後の道筋が明確になったと思います。フェスティバルが終わると脱力感と少しのものの哀しさが漂いますが、後片付け終了後皆と交わした「また来年ね！」という言葉思い出し、また前に進んで行こうと思います。(JY)

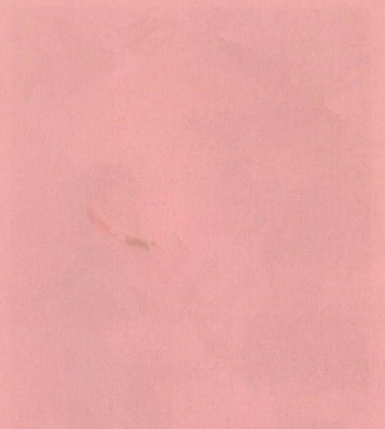
# 筑波学園

筑波学園の歴史や、建学の精神、教育理念、教育活動、社会貢献活動、学生生活、国際交流、スポーツ、文化活動、卒業生、在校生、教職員、関係者、市民、社会、未来の展望、などについて詳しく紹介しています。

## つくばに心をつなぐ

筑波学園 広報課

つくばに心をつなぐ。筑波学園の歴史や、建学の精神、教育理念、教育活動、社会貢献活動、学生生活、国際交流、スポーツ、文化活動、卒業生、在校生、教職員、関係者、市民、社会、未来の展望、などについて詳しく紹介しています。



## つくばに心をつなぐ

筑波学園 広報課

筑波学園の歴史や、建学の精神、教育理念、教育活動、社会貢献活動、学生生活、国際交流、スポーツ、文化活動、卒業生、在校生、教職員、関係者、市民、社会、未来の展望、などについて詳しく紹介しています。

筑波学園の歴史や、建学の精神、教育理念、教育活動、社会貢献活動、学生生活、国際交流、スポーツ、文化活動、卒業生、在校生、教職員、関係者、市民、社会、未来の展望、などについて詳しく紹介しています。

筑波学園の歴史や、建学の精神、教育理念、教育活動、社会貢献活動、学生生活、国際交流、スポーツ、文化活動、卒業生、在校生、教職員、関係者、市民、社会、未来の展望、などについて詳しく紹介しています。

筑波学園の歴史や、建学の精神、教育理念、教育活動、社会貢献活動、学生生活、国際交流、スポーツ、文化活動、卒業生、在校生、教職員、関係者、市民、社会、未来の展望、などについて詳しく紹介しています。

筑波学園の歴史や、建学の精神、教育理念、教育活動、社会貢献活動、学生生活、国際交流、スポーツ、文化活動、卒業生、在校生、教職員、関係者、市民、社会、未来の展望、などについて詳しく紹介しています。

## つくばに心をつなぐ

筑波学園 広報課



NPO法人つくばピンクリボンの会  
Tsukuba Pink Ribbon Coalition

Tel&Fax: 029-856-2002 E-mail: tsukuba-pinkribbon@nifty.com  
http://homepage2.nifty.com/tsukuba-pinkribbon/  
筑波学園郵便局私書箱20号 つくばピンクリボンの会 〒305-8691  
つくば市天久保1-2 つくば総合健診センター内 〒305-0005